

歯科衛生部門だより

診療支援部歯科衛生部門 石澤 尚子



歯科衛生士石澤です。歯科衛生部門は平成24年4月から総勢22名になりました。これを機にユニフォームを変更いたしました。上着は白、パンツは濃紺のツートンカラーです。昨年全員でカタログを開きながら、さすが女性、やっぱりスタイルが良く見えて……汚れにくくて……活動しやすくて……とあれこれと探しました。ただし、何よりも一目見ただけで「新潟大学医歯学総合病院の歯科衛生士」と分かるデザインにすることが大切、他の職種と重なっていないことを確認して申請へ。承認をいただいた時は歯科衛生士室心機一転、さあ頑張ろう！ と、とても嬉しかったことを覚えています。

歯科衛生士22名は、たとえユニフォームは同じでも人には皆個性があると同じように、興味のある業務や研究分野もそれぞれです。第8回全国診療支援部会議において職員に意識や社会的地位の向上を目的に学位取得の援助を行っている病院が複数あることを知りました。新潟大の歯科衛生士室には社会人大学院の前期、後期課程で学んでいる、またそれらの修了者が他大学に比べて多いようです。そのせいか、臨床（現場）に研究をどう応用（実践）しているの？ とか、職員の意識って本当に変わるの？ 病院外の活躍は？ など、さまざま質問を受けます。しかし、私たちはその質問に答えられるレベルまで達成しているか、自信がないのが本音です。取り組んでいる研究が臨床に活かしてこそ、その意義をもつと考えますが、歯科衛生士一人一人の考え方の違いや、配属診療科、勤務時間の違いなども、積極的な研究活動や

得意なものを活かしにくくしているかもしれません。

今後、新外来等において多くの診療科に係わる新しい働き方を行う予定です。働き方が変わることによって、これまでの成果を活かしやすくなるのではないかと、また、研究に限らず一人ひとりの得意分野の活躍が活かせるのではないかと想像しています。

歯科単独であった時代から医歯学総合病院になり、さらに新外来棟において医科病棟や他職種との連携が今まで以上に深くなって「〇〇診療室の衛生士さん」から新潟大の「△△歯科衛生士」と呼ばれる存在になれたら幸いと思います。

しかし、歯科衛生士の診療科配属で良かったこともたくさんあります。私は口腔生命福祉学科編入1期生として卒業後、初配属先から気がつくところまでの卒後5年間、ずっと予防歯科診療室でした。予防歯科診療室について一言で思い出を語ることはできず、盛り沢山の出来事がありました。予防歯科診療室は、個人のみならず歯科衛生士室にとって拠り所です。常におおらかにそして多大な援助をいただいています。新外来棟へスムーズ



に移行する時には計画を遂行するために無理な協力もお願いしました。その都度、宮崎秀夫教授から「病院全体を見て考えること」と、ご指導ご鞭撻いただいたことは、私自身にとって大きな経験と教訓を得た時間でした。

平成24年秋、新外来棟では現在のような配属ではないにしても歯科衛生士一人ひとり診療科配属はたくさんの思い出や歯科衛生士として糧になる

時間であったと思います。

配属診療科の先生方、村山師長はじめ看護師の皆様、事務系コメディカル関係者様等々、全ての方々に歯科衛生士一同ご指導ご鞭撻いただいたこと心から感謝申し上げます。これまでも、今後も歯科衛生士室を何卒よろしくお願い申し上げます。

